

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」交付申請関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施 自治体名	課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために 本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現状の 数値	単 位	本年 度の 目標 値	本年 度の 実績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
北川村	①学校運営上の課題	教職員の時間外勤務の是正	多くの教員の時間外勤務が常態化しており、教員の業務負担軽減による時間外勤務の縮減が課題となっている。	地域学校協働活動推進員(2名)を委嘱し、常駐化する。常駐する推進員は、学校や地域・企業等との連絡調整等を担い、教員の業務負担軽減を図る。	学校・家庭・地域の役割分担の明確化により、地域との協働が進み、教員の業務負担が軽減する。	本来教員が実施していた業務を地域学校協働活動推進員が引き受けた時間数。	1430	時間	3000	3720	4 ・継続して、推進員を常駐化することにより、地域・企業との連絡調整を迅速に行うことができた。それにより、総合的な学習の時間が充実したものになった。
北川村	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	【放課後子ども教室】村の高齢化や勤務時間帯、勤務時間数の観点から、支援員の確保が課題となっている。	支援員に定期的に今後の勤務についてヒアリングを行い、人員が不足しそうな場合は事前に募集をかけるようにする。	より安心・安全に子どもの見守りを行うことができる。	月に1～2回の支援員へのヒアリングの実施回数(12回)	83	%	100	100	3 ・支援員を4名確保することにより、人員を確保することができた。また、支援員とのヒアリングも月1回程度(計12回)実施することができた。
北川村	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	授業数等の関係で授業内で取り組めない体験活動は、校外活動(放課後子ども教室、公営公設塾その他の取り組み)を有効活用して事業展開をしていく必要がある。	校外活動として体験活動を強化することにより、非認知能力や自己表現力を高める。公営公設塾等による体験的な探究学習の実施やICT支援員によるプログラミング教室の実施。年間10回外部講師による国語出前授業の実施。	教育委員会・保護者やボランティア、講師招聘等によるイベント活動の頻度を増やし、児童・生徒の体験活動を豊かにする。授業内ではなく校外活動とし、学校外部の関わりによって実施することで、教員の業務負担が軽減する。	放課後等における体験活動を強化する。体験活動日数。	43	回	70	53	2 ・目標値の達成はならなかったが、推進員が中心となり運営したことで、教員の負担軽減につながった。 ・また、子ども達の発達段階に応じた活動方法の工夫をしたことで、子ども達にとって有意義な活動となった。